

はじめに

首都大学東京 副学長・大学教育センター長・FD 委員会委員長



山下 英明

18歳人口の減少やグローバル化の進展など、社会が急激な変化に直面する中、高等教育機関では専門的知識及び幅広い教養の教授に加えて、論理的・創造的思考力、問題解決力、多様性に対する対応力などの能力を備えた人材を育成することが求められています。本学においても教育の質的転換を図るために、アクティブラーニングの促進、GPA 及び共通の成績評価基準の導入、TA 等による授業補助体制の強化などに取り組んできました。また、FD 委員会においては、今後の授業設計に役立てていただけるような情報を広く提供するために、毎年、全学的なセミナーを開催してきました。

2016年度は、FD 委員会の年間テーマを「主体的に考える力を育成する仕組み—授業外学習の有効活用—」とし、11月にFDセミナー「能動的学習を促進する授業デザイン —能動的学習の評価を考える—」を開催しました。基調講演は、高等教育における学習環境デザインを専門とする、関西大学教育推進部教育開発支援センター准教授 岩崎千晶氏に、「アクティブラーニングの評価方法を考える」をテーマに講演いただきました。評価方法のみならず、授業の目標を何に設定し、それをどのように評価するのかという根本的な考えが重要であることを説かれました。また、全国的な授業外学習の実態をベネッセ教育総合研究所研究員 岡田佐織氏に、授業改善アンケート結果から見える本学学生の授業外学習の状況を本学教員の松田岳士氏（大学教育センター）に報告いただきました。それぞれ膨大なデータを様々な側面から分析されており、授業外学習時間を増加させるためには教員がどのような授業設計や評価を行えば良いかの示唆をいただきました。続いて、本学教員の野口昌良氏（都市教養学部経営学系）と鈴木準一郎氏（都市教養学部理工学系）に、評価方法の一つとして注目されているルーブリックを用いた学内の先進的な事例について紹介いただきました。お二人ともルーブリックによる評価を受けた学生の感想をしっかりと把握し、そこであがった意見を次の改善に繋げていました。FDセミナーの詳細については巻頭特集にて取り上げていますので、ぜひご一読ください。

また、2017年度から教学IRが実施されるのに伴い、2016年6月開催したFD委員会・総務部総務課共催のFD・SDセミナーにおいて、「教職協働によるIRの推進」をテーマとして取り上げました。IRを機能させるためには教職員双方の協力が不可欠であるので、教職員にIRで何ができるようになるのか、どのような効果が期待できるのか、具体的なイメージをつかんでいただくためです。基調講演では、IRに先駆的に取り組まれている、大阪府立大学学長補佐・高等教育推進機構副機構長 高橋哲也氏をお招きし、講演をいただきました。大阪府立大学では、継続的なデータ収集と、その分析結果に基づく多様な改革が実行されています。教学IRの必要性について再認識するとともに、本学ではまず分析に必要なデータを継続的に収集する仕組みを構築することが必要であると感じました。

このほかにも、4月初旬に新任教員研修を開催し、担当する授業の学習目標に応じた評価方法を設定できるようになることと、基本的なルーブリックを作成できるようになることを目標とした、インストラクショナルデザインに関する講演及びワークショップを組み込みました。また、昨年度、アクティブラーニング推進のためTA制度を改正・拡充しましたが、TAが教育補助者として活躍できるよう、TA初任者を対象とした研修や、高度なTA業務を担当するSTA（シニア・ティーチング・アシスタント）を主対象としたグループワーク型の研修を実施しました。

FD委員会では、今後も主体的に考える力を育成するための様々な情報や選択肢を提供し、個々の授業担当者が最適な授業設計をするのにお役立ていただきたいと考えています。

クロスロード第 16 号

目 次

はじめに

I. 巻頭特集 FDセミナー記録

- 基調講演 4
「アクティブラーニングの評価方法を考える」
関西大学教育推進部教育開発支援センター 准教授 岩崎 千晶
- 調査報告① 11
「授業外学習時間が多いのはどのような学生か」
ベネッセ教育総合研究所高等教育研究室 研究員 岡田 佐織
- 調査報告② 14
「授業アンケート結果から探る授業外学習時間」
大学教育センター 教授 松田 岳士
- 学内事例報告 16
「ルーブリックを用いた学習成果の評価に関する学内の取組事例」
都市教養学部経営学系 教授 野口 昌良
都市教養学部理工学系 准教授 鈴木準一郎

II. セミナー・研修開催報告

FD・SDセミナー記録

- 報告 24
「首都大学東京における教学 I R の方向性」
大学教育センター 教授 松田 岳士
- 基調講演 26
「I R で何ができるか - 大阪府立大学の試行錯誤 -」
大阪府立大学 学長補佐・高等教育推進機構副機構長 高橋 哲也
- 教職員による課題研究発表 32
「データを活用した取組事例 - 教職員それぞれの立場から -」
都市環境学部 准教授 山登 正文
首都大学東京管理部学長室 主任 塚本 浩太
- パネルディスカッション 36
「首都大学東京の I R - 今後の在り方を探る -」

研修開催報告 40

III. 授業改善アンケート実施報告

授業改善アンケート実施報告 45

IV. 活動報告

部局 FD 活動報告 61

FD 委員会活動記録 71